

---

# 王様を殴り飛ばした勇者

若草赤

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

王様を殴り飛ばした勇者

### 【Nコード】

N3234K

### 【作者名】

若草赤

### 【あらすじ】

王様を殴り飛ばした勇者あああああ！？

そんな滅茶苦茶勇者が送る異世界ライフ

## 国王を殴り飛ばした竜夜

男にはやらなきゃならない時がある！

と、竜夜（りゅうや）は拳を握り締める。

数十分前。

「あのさ……」

坂本健が竜夜に言う。

「んだよ？ 俺は女の子が笑顔でお前を諦めさす方法なんざ知らねえぞ」

一見冗談とも取れる台詞。

実は本気で言っていたりする。

何故なら坂本健という男は性格、聖人君子。外見は、王道！と言ったようなイケメン。

シャープで切れ長のブラウンの瞳。

スラリとした高い身長。

モデル顔負けしかも、性格は聖人君子。

そんなこんなで女の子にモテる訳だ。

あんな台詞が出てくるのも仕方ないと言えるだろう。

「あゝ。そうじゃなくて、俺の足下」

足下？ と竜夜は健の足下を見る。

足下から半径一メートルにかけて青い光を発している。

「コツチに来るなよテメエ」

竜夜は冷たい一言を発する。

そしてジリジリと後退り。

健は、一つ獰猛に笑ってから。

「そんな冷たい事言うなああああ！」

バツ！ 竜夜に飛びかかった。

竜夜は逃げようとしたが青い光がギリギリ脚に触れる。

その瞬間。

二人の視界は暗転した。

「成功したぞ！」

「勇者様の召喚に成功しおった！」

「二人居ないかアレ？」

どよめく魔法使いや、騎士や、臣など。

「失敗などする筈がないだろう」

髭を蓄えている四十程の王が言う。

赤いローブを着込んでいる。

姫は、竜夜を恐る恐る揺り動かして起こしてみる。

竜也は急に感じた温かみと揺れ動かされたので起きた。

目に飛び込んできたのは少女。

絹のような薄い青色の髪、大きな碧眼を持った可愛い少女である。

白い修道服のような物を着ている。

胸の辺りに金のペンダントを付けている。

お姫様みてえだな。

と竜也は思った。

健が横でムクリと起き上がった。

姫様は、緊張した面持ちで言う。

「えっ、ここはランバートって言う世界です」

何か説明が始まった。

「あ、あなた達は勇者としてこの世界に召喚されました」

「「はあ………そうですか」」

「えっと………随分軽いですね反応が」

「っーかさ。勇者って何？ 役目を教えろよ。それとお前誰？」

と、竜也。

「はい。失礼しました。私は第十七代ラルバート国の姫。ファン・

ブルゼムです。勇者様には魔王を倒して欲しいのです」

慌てて言う姫様。

っーことはここは異世界で、国の主要人物共が集まってる場所っ

て事か。

「うわ、あの騎士もどき殺気立てすぎだろ」

はあ、メンドクセエ。

杖持つてる奴なんざ笑ってんじゃねえか。

まあ、一枚岩なんざそうそうねえからな。

「魔王って悪いんですか？ 悪い奴なら俺、勇者しますけど」と、健。

「はい。魔王は悪い奴です。あとそちらの勇者様は？」

「俺パス。つーか帰らせる」

「それは無理だな」

と国王。

人の意向を完全に無視した言い方に腹が立った竜也は睨みつけながら言う。

「あ？ ぼけてんのか糞爺」

「国王様に何を　！！」

騎士もどきが殺気を振りまきながら突進しようとした所を隣に居る魔法使いに魔法で動けなくされる。

国王は怒りで顔を引きつらせる。

「うつせえよ！ 魔王も倒せねえ騎士もどきが！」

竜也は怒りを隠さずに怒鳴る。

「なッ……！！」

騎士はガクリとうなだれる。

国王は顔を怒りで引きつらせたまま、

「お前ら二人には勇者として、この世界を救う義務がある」  
偉そうに言う。

「義務だ？」

「そうだ。千年に一度現れる魔王を倒すのは毎回、異界の人だと決まっている。二人などは初めてだがな」

「糞爺。テメエらが魔王倒しに行つて来いよ！」

「オイ。俺らが魔王倒しに行けばいいじゃん。悪い奴らしいし」

健が竜也を落ち着かせようと試みるが、竜也は更に怒りがヒートアップする。

「オイ糞爺。俺らが召喚されたのってランダムか？」

国王はもう我慢出来ないと呼ぶ。

「コイツを死刑にしろオ！」

「勇者なので我慢して下さい」

と、臣。

国王は渋々と言った感じで承諾する。

「勇者として相応しい奴が召喚されるそうだ」

「ふ〜ん。なら、この国の金を十パーセントと兵を一万貫おつか」

と、竜也は試すように言う。

「無理だ。兵を一万遣わした所で魔王に勝てる筈が無い。金も駄目だな。十パーセントは多すぎる」

「何にもくれねえでただ働きつつー事か？」

「いや、税金は取らないし、生活出来るぐらいの金もやるし、四、五人はお前らにやる。生かすも殺すもお前ら次第だ」

ブチリ！ と、竜也はキレた。

「つまりは、あれだ。お前らは性格の良い一般市民を勇者だなんだと祭り上げて魔王の元に少ない人数で行かしたって訳だ」

勇者として相応しい奴　つまりは、国の思い通りになる奴って訳だ。

魔王を倒せばラッキーで倒せなければ残念だったなあ、で終わらせる訳だ。

「テメエらの国ぐらいテメエらで守れや糞共が！」

「勇者が代々魔王を倒して、国を守ると決めておる。魔王を倒せば、元の世界にも帰してやるう」

他人任せの上、上から目線のこの国王に本気でキレた。

竜也は拳を岩のように握り締め、ゆっくりと国王の元に歩き出す。男にはやらなきゃならない時がある。

例え、相手が一国の王であろうが魔王であろうが、やらなきゃな

らない時がある。

「国王様？」

怒りを押し殺して言う。

あのム力つく面に一発ぶち込んでやる。

瞬間、騎士が竜也の前に立ちふさがる。

竜也は、国王を殴る為の右手に更に力を籠める。

「どけ」

「駄目だ」

竜也は何も言わずに左手で騎士を押し。

殴り飛ばしたいのはコイツじゃねえ。

騎士はよろける。

「この勇者を言う事聞くまで調教しろ」

国王が無慈悲に言う。

竜夜は獰猛に笑いながら、騎士に言う。

「魔王より上の勇者に勝てると思ってんの？」

ゴッ！ 魔力が風のように祭壇中に行き渡る。

騎士は魔力に当てられて固まる。

ガタガタと震えながら騎士は言う。

「何て魔力だ……」

冷静だったならば聞き慣れない単語に首を傾げていただろう。

しかし、今の竜夜はそんな言葉は聞いていない。

固まっている騎士を通りすぎる。

ただのハツタリで騎士が固まった事に少し疑問を覚えたが、そんな事はすぐに霧散する。

国王の元まで走る。

国王は、逃げようとするが、

竜夜の方が速い。

肩を掴み、振り向かせる。

「ひやつあ！ 止めろ！ 王だぞ僕は！ 勇者如きが王を殴るなど

……！！」

一国の王が半泣きになりながら竜夜に言う。

「うるせえよ」

右腕を後ろに伸ばす。ギリギリ、と力が籠められていく。

「止める……ッ！ お前ら止めさせるッ！」

国王が必死に叫ぶ。

「何の覚悟もねえ奴に誰か着いてくると思ってたのか？」

「う、わ……あっ！ 服国王の座をやるう！」

ゴツッ！ 竜夜の拳が国王の顔面に突き刺さった。

国王は竹トンプボのように回りながら頭から地面に激突した。

## 一国を滅ぼした勇者

俺は固まっている全員をほって外に出た。

子供が泣いていた。

どうやら、この国の税金が高すぎて80%の人が飢餓状態らしい。

俺は王を三十発ぐらい殴り飛ばした。

「テメエら殺す」

先程の全員を固まらせた感覚を右手に集中させる。

チユドオオオン！ 城を破壊した。

勿論、殺しはしていない。

そこらへんも考えて、城を破壊したのだ。

そして、城を乗っ取った俺こと勇者はこの国を正しく導いている。

「あの馬鹿（王）は市民に戻せ。魔王？ あゝ倒さないとな〜うん」

健は先程出発したらしい。

あれ？ 俺行く必要なくね？

## 世界を滅ぼしかけた勇者と世界を守った勇者

竜夜は魔王を倒す為に無理やり出発させられた。

「俺王様何ですけど？ 軍隊付けるからって？ 勇者としてじゃなくこの国を愛する者として行って下さいって アホかあああああああああ！」

魔力を手に集めて放つ。

コレだけの動作で魔物共は吹き飛ばす。

まあ、何やかんやで魔王との決戦。

魔王との決戦は熾烈を極めた。

「フリーズ！」

カアッ！ 氷のやまたのおろちが魔王に飛ばす。

「甘い（笑）」

ファイアで氷を溶かされる。

「俺の最終奥義だあああ！」

竜夜が魔力を放つ。

ゴアアアアア！ 魔王は細胞一つ残さず吹き飛び魔王の城も素粒子レベルまで分解された。

「悪いな。健。俺の魔力を放つ技 魔力弾から世界を守ってくれて」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3234k/>

---

王様を殴り飛ばした勇者

2010年10月8日15時23分発行